



確かな学力の育成 ～自分と友達の考えをつなぎ 広げたり深めたりすることができる児童の育成～

7月10日 5時間目に、オンライン授業で、北海道の松前町立松城小学校の5・6年生と一緒に、脱炭素社会について学びました。講師である東急不動産の方の話を聞いて、クイズに答えたり、質問をしたりしました。今後、総合的な学習の時間において、行方市の未来に向けて今の自分たちができることを提案していきます。そして冬休み前に、松城小学校とオンライン発表会を開く予定です。



豊かな心の育成 ～自分の良さを知り、一人一人の個性を大切にできる児童の育成～

図書委員会の企画運営で、たなばた集会がおこなわれました。たなばたに関する紙芝居の読み聞かせ、〇×クイズ、歌など楽しい企画でした。

5年生有志6名が、「交通安全こども自転車茨城大会」に参加しました。県内からたくさんの小学生が集まりました。本校児童も、堂々とした態度で競技に臨むことができました。



健やかな体の育成 ～心身ともに鍛えあう児童の育成～

1年生が手洗いの大切さや、手の洗い方について学習しました。蛍光塗料を使って、自分の手の汚れを確かめました。「爪に残ってる!」「指の間が洗えていない!」と自分の手洗いの弱点を見つけました。正しい洗い方を知り、休み時間には「手を洗わない!」といつもより長く手を洗っていました。お家でも実践して欲しいと思います。



地域と共にある学校づくり

令和7年度第1回 麻生東小学校学校保健安全委員会がおこなわれました。第1部では、本校の定期健康診断の結果について報告させていただきました。また、学校歯科医の先生、学校薬剤師の先生からご指導いただきました。第2部では、行方消防署の方に指導をいただき、水難事故の防止、心肺蘇生の実技について教えていただきました。



7月12日 行方市生涯学習課・PTA連絡協議会共催の「基本的な生活習慣改善推進事業講演会」がおこなわれました。本校からも保護者の皆様にご参加いただきました。とても意義深いものでした。以下に内容を共有したいと思います。

「どう守る？デジタルネイティブの子どもの脳」～ 磯村 毅 講師より ～

👉幼少期の環境が未来をつくる

磯村毅先生は、子どもの脳の発達にとって「小さいときが勝負」と語ります。幼少期からスマートフォンやゲームなどの強い刺激に慣れてしまうと、通常の体験では脳が反応しづらくなり、意欲や喜びを感じにくい脳になる可能性があるそうです。

👉静か＝落ち着いている…ではない？

「スマホを見せていると子どもが静かになる」という声もありますが、それは脳が過剰な刺激に支配され、疲れて反応できなくなっている状態であり、デジタル機器を使いすぎると、前頭前野の働きが低下したり、壊れていったりすることで、感情のコントロールが効かなくなり、「切れやすい」「やる気が出ない」といった問題が出てくるそうです。

👉勉強しても、スマホで台無し？

講演では「1日2時間以上勉強していても、スマホ使用時間が長い子は学力が伸びない」というデータも紹介されました。逆に、授業以外で特別な学習をしていなくても、スマホをあまり使っていない子の方が成績が良いケースもあるそうです。

👉全国レベルの高校生が実践！「スマホ断ち」で競技力アップ

全国大会で活躍する高校の運動部では、スマホの使用時間を制限する「スマホ断ち」を実施し、集中力やチーム力が飛躍的に向上したという事例が紹介されました。顧問の先生や生徒からは「部活中の集中力が切れない」「夜の睡眠が深くなった」「練習の質が上がった」など、競技力の向上につながったという報告が続いているそうです。こうした変化は、大人が「スマホを奪った」のではなく、本人たちが目的意識を持って自ら手放したことが大きな要因とのこと。スマホを使わない時間が、逆に心と体を整える時間になっているのです。

👉いじめのきっかけにもなるスマホ

「スマホを持っていないと仲間外れにされるのでは？」という保護者の声もありますが、現代のいじめはむしろスマホやSNSがきっかけとなることが多いのが実情で、スマホがなければ、家に帰って「やれやれ」と心を落ち着かせる時間が持てますが、スマホがあると家庭でも人間関係のストレスから逃れられない状態になる心配があるとお話いただきました。

👉家庭でできること：ルールと対話

講演に参加し、スマホやゲームは便利で楽しい反面、使い方を誤ると脳や心への影響が大きくなることを改めて実感しました。「何のために使うか」「どのくらい使うか」を、ぜひご家庭でも話し合ってみてください。ルールを押しつけるのではなく、子どもと一緒に考え、大人も含めて、スマホに支配されない暮らし方を探っていくことが大切だと思います。

1学期を終え、いよいよ夏休みを迎えます。4月からの4か月間保護者の皆様にご協力、ご理解をいただき順調に教育活動を展開できましたことに深く感謝いたします。夏休みは、子供達にとって心身ともに成長することができる体験が与えられる貴重な期間になるかと思えます。教職員もこの期間多くの研修の機会を得ております。教職員も成長できる夏休みとしたいと思っております。9月1日に笑顔いっぱいの子供たちと出会えることを心待ちにしています。

